



地域医療連携室だより



令和7年5月発行

国民の5人に1人が後期高齢者の超高齢化社会を迎え、医療、介護、福祉に深刻な影響を及ぼすとされた、“2025年問題”に直面する年となりました。熊本市西区圏域は熊本市の他の区と比較して高齢化率が高く、急性期医療、在宅医療、介護保険サービス事業所との連携がより重要となっています。さらには様々な社会的課題を抱えるケースも少なくありません。患者様が少しでも安心して地域へ帰れるよう、当院でも様々な取り組みを行っています。今回はその一つ「試験退院※」についてご紹介いたします。

(※当院オリジナル呼称)

試験退院とは？



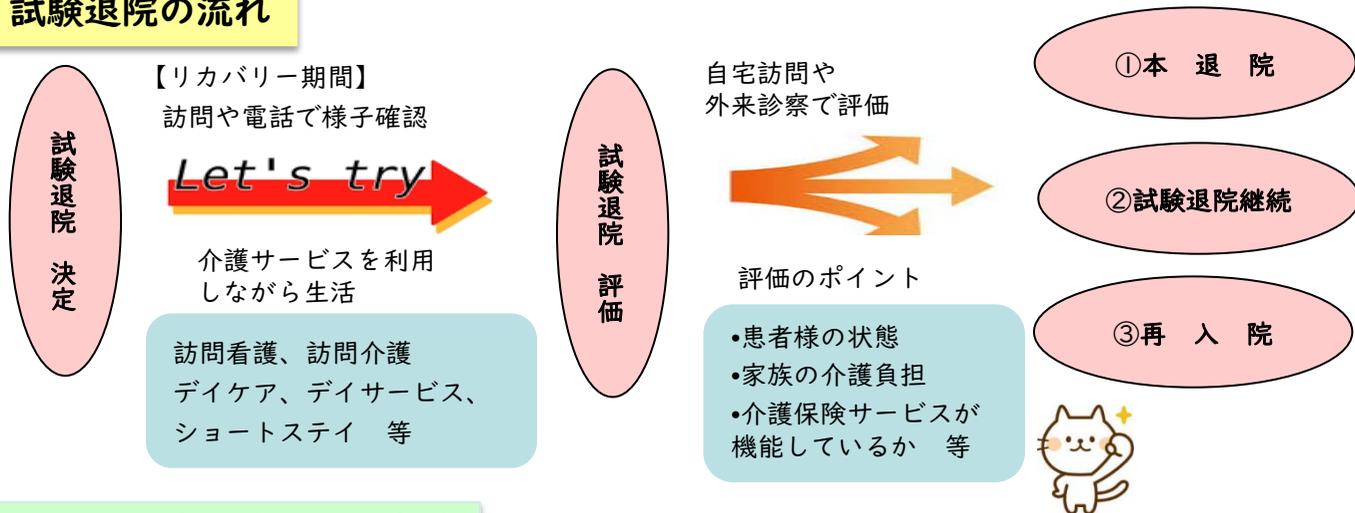
入院中に行う試験外泊では実際に介護保険サービスの利用はできませんが、試験退院では、介護保険サービス等を利用し実際に在宅生活を体験することができます。これにより、患者様・ご家族が退院後の生活を現実的に捉え、退院後の生活における不安の軽減を図ることができます。

試験退院中は必要に応じていつでも再入院ができるように準備をしている為、安心感をもってチャレンジができます。

試験退院中を「リカバリー期間」とし、病棟スタッフ、在宅部門スタッフが訪問や電話等にて日々の評価を繰り返し行い、在宅生活の実現につなげていきます。

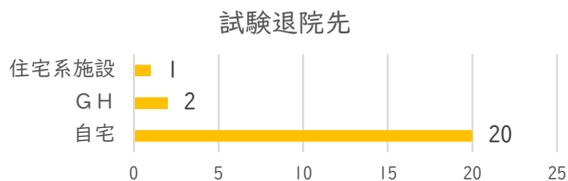
最終的には、スタッフによる自宅訪問や外来診察にて①本退院、②試験退院継続、③再入院となるかを検討・決定していきます。

試験退院の流れ

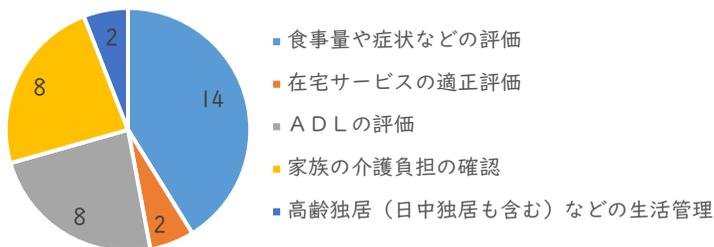


令和6年度 試験退院実績

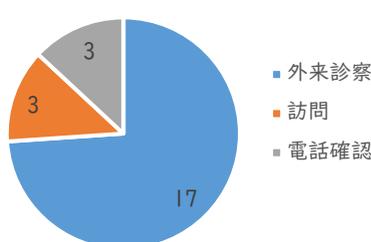
試験退院総数 23件 (内、本退院 22件・再入院 1件)



試験退院の目的 (複数回答)



評価方法



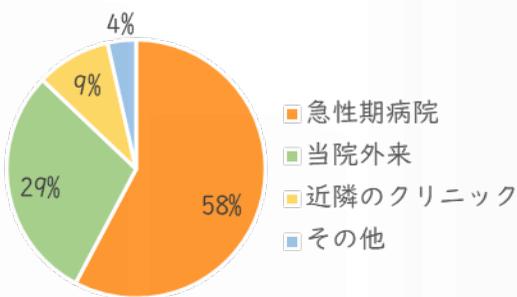
令和6年度 当院の入退院実績



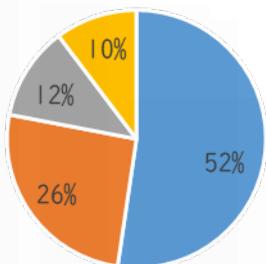
○入院総数 760名 (内、介護医療院への入院数 28名)

○退院総数 751名

当院への入院元内訳



退院先内訳



職場子ども参観日



令和6年11月16日、職場子ども参観日が開催されました。部署見学では、地域医療連携室にも沢山の職員の子も達に来てくれました。私たちの役割を説明することは難しかったですが、困った時には一人で悩まず、相談できる所があることを伝え、子ども達もしっかりと話を聞いてくれました。地域医療連携室には働くパパ、ママも多く、普段見ることができない姿に触れ、子ども達も嬉しそうでした。

親子でパシャ



診療支援部

地域医療連携室

部長 寺田
課長 吉村(社会福祉士)

地域連携担当
(看護師) 辻・小野・上田



ソーシャルワーク担当
(社会福祉士)
芹川・片江・宮嶋・城戸
木本・清田・緒方・田中
・恵美須(4月入職)



私たちが地域医療連携室スタッフです
ご相談のお電話お待ちしております！

(代表) 096-354-1731 (FAX) 096-354-1736

- サービス付き高齢者向け住宅「フラインテラスせいじの」
- 地域介護相談センター「けあまっぶ城西」
- せいじのヘルパーステーション
- 訪問看護ステーション「城西」



職員ミニバレー大会



令和6年11月27日、職員ミニバレー大会が開催されました。参加人数121名の20チームで競い、地域医療連携室からは栄養科と合同で2チーム出場しました。その内の1チームがなんと準優勝獲得。共に汗を流し、絆を深めることが出来ました。次は優勝を目指します！



〈医療法人金澤会 青磁野リハビリテーション病院〉

診療科目

内科、循環器内科、代謝内科、消化器内科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、呼吸器内科

入院医療機能 総病床数185床

地域包括ケア病棟：41床

回復期リハビリテーション病棟：60床

障害者施設等一般病棟：36床

医療療養病棟：48床

介護医療院せいじの 47床

承認を受けているリハビリテーション

心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)

廃用症候群リハビリテーション料 (I)

運動器リハビリテーション料 (I)

発行 青磁野リハビリテーション病院 発行人 金澤親良
編集 青磁野リハビリテーション病院 地域医療連携室
〒860-8515 熊本市西区島崎2丁目22番15号
<http://www.seijino.or.jp/>

《個人情報保護について》 当院では、患者さんその他関係者様に関する個人情報に関する法令の遵守に取り組んでいます。